

平成30年度 指定管理施設に係る事業報告概要

施設名	千代田区立高齢者総合サポートセンター (かがやきプラザ)	所在地	千代田区九段南1-6-10
-----	---------------------------------	-----	---------------

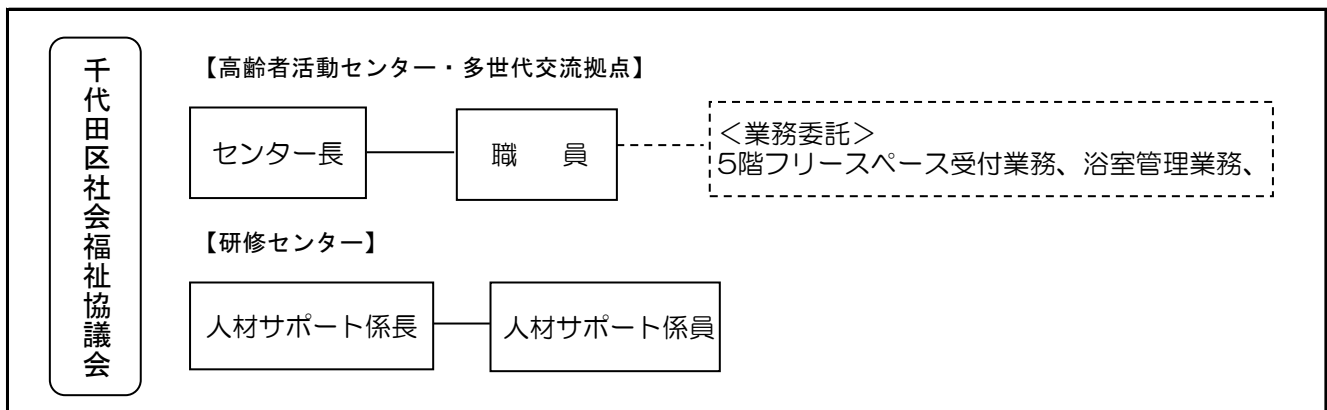
1 指定管理者の概要

名称	社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会	代表者	会長 田邊 恵三
所在地	千代田区九段南1-6-10		
指定期間	平成28年1月1日～平成33年3月31日	報告期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

2 管理施設の概要

施設の目的	<p>【高齢者活動センター・多世代交流拠点】 高齢者の各種相談に応じるほか健康の保持・増進、教養の向上、レクリエーションなどの便宜を提供し、高齢者福祉の増進を図るとともに、世代間交流の機会を通じ、地域のにぎわいの創出を図る。</p> <p>【研修センター】 福祉ボランティア、家族介護者、介護・福祉サービス等従事者の育成を目的とした研修事業、介護と医療の連携した効果的なサービス提供のための両分野の人材の相互理解を進める事業、介護・福祉分野への人材参入促進を目的とした事業などを通して、高齢者総合サポートセンターの設置目的である地域包括ケアシステムの推進を行う。</p>
管理業務の内容	<p>【高齢者活動センター・多世代交流拠点】</p> <p>(1) 高齢者活動センター事業に関する業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ①健康維持増進、機能回復訓練 ②教養の向上、レクリエーション ③健康相談、指導等 ④多世代交流事業 <p>(2) 施設・設備の保守および維持管理</p> <p>【研修センター】</p> <p>(1) 次に挙げる講習、講座等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアの育成と活動支援 ②家族介護者のスキルアップ ③介護・福祉従事者のスキルアップ ④介護と医療の連携づくり ⑤福祉知識の普及・理解促進 ⑥介護・福祉人材の育成と就職・復職支援 ⑦介護カウンセリング <p>(2) 閲覧室の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ①利用開放 ②備品・物品の維持管理

3 管理体制の状況



4 事業実績等

【高齢者活動センター・多世代交流拠点】

ア 利用者数実績

	年間開館日	浴室開設日数	利用者数		利用登録者数	新規登録者数	入浴者数	
				一日平均利用者数				一日平均入浴者数
30年度	349日	349日	63,774人	183人	1,331人	237人	22,919人	66人

	健康増進			生活相談	講座等	催し物	団体支援	ふれあいクラブ		多世代交流	
	健康相談利用者	機能回復訓練利用者	脳トレ・マシン等		講座・講習会等	手づくり事業・レクリエーション	同好会・長寿会支援	回数	参加数	回数	参加数
								30年度	5,365人	906人	19,322人

イ 活動事業実績

項目	内容
活動センター事業	<ul style="list-style-type: none"> • かがやき大学説明会（2回、245人）／講習会・出張講習会（179回、4,440人） • 同好会発表会（演芸サークル発表会：309人）（作品展：延べ821人） • 利用者懇談会（6回、225人） • ふれあいクラブ（昼食会：162回、2,650人／研修交流会：4回、44人） • 多世代交流事業（34回、1,918人）
同好会活動支援	• 同好会53団体（新規登録同好会3団体）
長寿会活動支援	• 連合長寿会役員会（8回）、長寿会各地区例会（38回、2,502人）、福祉芸能大会（468人）
ボランティア活動	• ボランティア活動回数600回 活動人数2,182人
PR活動	• 月報「のぞみ」発行（毎月）、高齢者活動センター利用の手引き、同好会の手引き、その他区報・社協だより等

ウ 施設の維持管理業務

- 浴室浴槽管理業務（定期点検含む）
- 5階フリースペース案内受付業務（利用証確認等）

【研修センター】

ア 活動事業実績

(1) 講習、講座等

	開催回数	参加者
ボランティアの育成と活動支援（仕様書第1条第2項①②）	17回	403人
家族介護者のスキルアップ（仕様書第1条第2項①）	7回	240人
介護・福祉従事者のスキルアップ（仕様書第1条第2項③）	80回	1629人
介護と医療の連携づくり（仕様書第1条第2項③）	17回	519人
福祉知識の普及・理解促進（仕様書第1条第2項①②⑤）	6回	401人
介護・福祉人材の育成と就職・復職支援（仕様書第1条第2項④）	7回	205人
介護カウンセリング	23回	7人
講座等実績計	157回	3404人
(2) 閲覧室利用開放（仕様書第1条第2項⑤）日数	349日	—

5 収支の状況

【高齢者活動センター・多世代交流拠点】

収 入		支 出	
指定管理料収入	91,694,000円	人件費支出	53,503,439円
事業収入	2,314,100円	施設維持管理費支出	20,111,459円
その他収入	567,230円	事務事業費支出	6,334,807円
合計 (①)	94,575,330円	合計 (②)	79,949,705円
収支差額 (①-②)	14,625,625円		

【研修センター】

収 入		支 出	
指定管理料収入	31,724,751 円	人件費支出	20,964,214 円
事業収入	499,800 円	事務事業費支出	12,321,443 円
その他収入	0 円	合計 (②)	33,285,657 円
合計 (①)	32,224,551 円		
収支差額 (①-②)	-1,061,106 円		

【その他 (1階総合受付業務)】

収 入		支 出	
指定管理料収入	3,340,000 円	事務事業費支出	3,159,472 円
合計 (①)	3,340,000 円	合計 (②)	3,159,472 円
収支差額 (①-②)	180,528 円		

【総計】

収 入		支 出	
指定管理料収入	126,758,751 円	人件費支出	74,467,653 円
事業収入	2,989,900 円	事務事業費支出	41,927,181 円
その他収入	567,230 円	合計 (②)	116,394,834 円
合計 (①)	130,315,881 円		
収支差額 (①-②)	13,921,047 円		

6 指定管理者による自己評価

	サービス提供に関して	収支に関して
<p>30年度</p>	<p>【高齢者活動センター・多世代交流拠点】</p> <p><分析></p> <p>①利用者健康アンケートの結果を踏まえて、「部位の痛み」に対応するスポット体操の周知に力を入れ、参加者がコンスタントに10名を超えた。また、トレーニングマシンでは、サポートするボランティアの養成講座を行うとともにマシン利用者も増え、延利用者は平成29年度の約1.4倍となった。マシン利用までの待ち時間が発生することもあり、現在の体制では対応が難しくなってきたため、今後の運営方法等について検討が必要である。</p> <p>②かがやき大学では、後期からかがやき大学アフタースクールを実施し、少人数によるもので、自らの学びを深めたり、参加者同士の交流を図るなど、沙龙的な雰囲気を実施した。また、かがやきプラザから遠く、かがやき大学に来ることができない高齢者の方のために、かがやき大学韮町分校、神田分校のサテライト講座をそれぞれの地区で実施するとともに活動センターのPRを行った。新規登録者の減少が課題であるが、関係機関とも協働しながらより多彩なプログラムを実施するとともに、地域に向いてのサテライト講座を引き続き実施していき、PRを行っていききたい。</p> <p>③高齢者のボランティア活動や地域貢献活動については、延べ9つの同好会がサロンや長寿会、ふれあい秋まつりなどに参加し交流促進に貢献した。さらに、センター利用者からかがやき大学の運営をサポートする学生アシスタントの活動、企画運営サポーターがイベントでのブース運営や季節行事等で事業運営に参加するとともに、企画から携わった「巨大すごろくをつくらう」を実施した。</p> <p>より多くの同好会が地域で活躍し交流できる機会をさらに増やしていくために関係機関と連携を図っていききたい。</p>	<p>【高齢者活動センター・多世代交流拠点】</p> <p><収入状況></p> <p>収入執行率は予算比で99.8%であった。</p> <p><支出状況></p> <p>支出執行率は85.8%であった。</p> <p><分析></p> <p>①多世代交流事業の執行率が54.4%であった。これは当初、外部の講師派遣等により予算策定を行ったが、事業に関わるボランティアや関係機関の協力が増えたことで、諸謝金支出が見込み額よりも抑制できたこと、また寄付物品等の活用により事業用景品等を購入するための消耗品費が低く抑えられたことが主な要因である。</p> <p><総評></p> <p>利用者の安全を第一に考えた施設運営を行うとともに、関係機関や多くのボランティアに協力を得て引き続き事業を行っていききたい。</p>
	<p>④多世代交流事業の事業運営にあたっては、活動センター利用者や区内NPO団体、企業、大学、高校など、多くのボランティアによる地域貢献活動により実施した。また、高齢者活動センターの「かがやき大学」とコラボレーションして、夏休み期間を利用して「多世代交流学科」を実施し、センター利用者を含めた子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できた。今後は、より多くのボランティア等の協力を得ながら、より定例化した継続的に交流を図ることができる居場所づくりを検討していききたい。</p> <p><総評></p> <p>今後、高齢者の自主的活動を推進し、地域活動に活かせるようにするとともに、関係機関やボランティア等の協力のもと多世代が交流できる機会を増やしていききたい。</p>	

<p>30年度</p>	<p>【研修センター】 <分析> ① 高齢者を対象とした食事サービス、運動サポート、生活のちょっとした困りごとへの対応等のボランティア養成講座を開催し、それぞれの活動につなげる取り組みを行った。すぐに活動につながらない場合は、ボランティアセンターの登録制度につなげ、講座の開催だけで終わらせない工夫を行った。 しかし、参加者が集まってもボランティア活動につながらないという課題が残り、ターゲットに合わせた養成講座の回数や内容について、見直しを行いながら実施していく必要がある。 ② 介護・福祉従事者のスキルアップ事業では以下の新規事業を行い、介護・福祉従事者向け研修事業の拡充を図った。 (1) 介護従事者の介護負担の軽減を図るために介護支援ロボットを導入し、その効果の検証を行う「介護支援ロボット検証事業」（区内2つの特別養護老人ホームで実施） (2) 医療的ケアのできる介護職員を養成する「喀痰吸引等研修」（6名参加、5名修了） (3) 毎月1回、介護・福祉・医療職の他、区民にも対象を広げた「認知症ケア研修」（のべ631名が参加、毎月1回認知症を学ぶ機会を提供） その結果、認知症への理解や介護ロボットの効果、介護分野でのIT活用への理解が深まり、実践に役立つとの意見があった（アンケート等）。</p>	<p>【研修センター】 <収入状況> 収入執行率は予算比で99.8%の収入があった。 <支出状況> 支出執行率は92.7%であった。 <総評> 平成30年度は新規事業が多かったが、着実に実行し、予算どおり執行した。</p>
<p>30年度</p>	<p>アンケート結果を反映させて、「健康づくり事業」の参加者数を前年度より4,000人増やしたこと、同好会による地域活動を増やしたこと、ひだまりホールから、麴町、神田の各地区でかがやき大学分校を開講したことは評価できる。特に地域活動は、当初からの課題のひとつであったが、29年度から地域の活動場所と同好会をマッチングさせ、今年度は地域活動する同好会が9団体まで増加したことは評価できる。 研修センターについては、参加者数が3,404人とさらに昨年度を1,000人上回ったことが評価できる。特に、「介護・福祉従事者のスキルアップ事業」では、新規に「介護支援ロボット検証事業」、「喀痰吸引等研修」、「認知症ケア研修」に取り組み、区の福祉介護の課題解決・スキルアップに挑戦し、アンケート等で好評価を得ている。地域包括ケアシステムの要である「医療と介護の連携」について、区と連携し、多職種協働研修により、多職種が事例検討や意見交換を進めたことなどが高く評価できる。 今後の方向性としては、区の千代田区の地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みを意識しながら検討してほしい。特に昨今、介護予防・フレイル予防対策事業に注力していることを踏まえ、高齢者総合サポートセンターの5つの拠点のうち、指定管理が担う3拠点についても、区と相互に連絡を密に取りながら、より効果的な事業計画・実施を目指してほしい。</p>	